

手をとりあて



フラダンスを楽しみました

声を聴く

施設長 小川内秀樹

言葉にならない声に耳を傾ける。よく見ると奇妙な言い回しですが、キングスガーデンが大事にしてきた、これからも続けていくものである。傾聴というものは、聞こえるものだけが、それではない。時には、お年寄りの弱っている体調や、進み認知症の中で、思いを伝えにくくなっていく事を目の当たりにする。ご自分では発せられることが不自由となつてくる。そんな時こそ、私たちは、思いを汲み取る事によって、日々のケアを行い、毎日の積み重ねによって、大きな方向を決めてきた。

それは、お年寄りの思いと通じているから、できる事。向かいあっているから、できる事。食事、排泄、入浴、着替え、お話しの手、毎日を通ぐす事で、できる事。

年をとると、失うものや、失う事が増えてくる。寂しさが伴うが、必要なものが残っていく。不足するものは、私たちが支えていく。仕えるとは、難しい事ではない。今私たちが行っている事が、理念そのものであり、ご利用者の身になって、考える事、動く事。丁寧な関わりで、もつともつと、お年寄りに笑顔になつてもらおう。

六月のボランティアと実習生

山田国昭様 金沢順子様 風見とみ子様 松戸教会の方々 藤代聖書教会 矢花光様 協力牧師の方々 佐藤ゆう子様 山田千恵様 牧野和子様 義務教育等介護体験学習 松崎みどり様 **いつも楽しい働き ありがとうございます。**



(NO.348) 特別養護老人ホーム 筑波キングス・ガーデン 0297(24)5139

北島良平様 孫 北島みゆき様



祖父は大正十二年七月十五日に常総市大生郷町で生まれました。七十過ぎまで親戚のガソリンスタンドに仕事に行き、その後は農業をしながら、朝起きて夜寝るまで忙しくしていたように思います。大きな病氣もせず、丈夫で九十三歳になる去年まで車の運転もして元気な過いしてきました。真面目で優しく、人の先頭に立って頼りにされてきた存在で、人の為に頑張ってきた祖父だと思えます。

この度、安全で安心して穏やかな生活を送ってほしいと、生活の全てにおき、お世話になる事になりました。とにかく、家が大好きで離れた事がない祖父なので、施設の皆様には多々ご迷惑をお掛けしている事と思えます。いつも大変感謝しております。今後とも宜しくお願ひ致します。



フラダンス

ヘルパー大嶋雅実

六月二十一日に夏の恒例行事であるフラダンスを行いました。今年は例年に比べ、ボランティアの方々も多く参加して下さい、大変豪華なフラダンスを堪能する事が出来ました。

普段とは違った華やかなステージをご利用者一人一人が食い入る様に見つめており、感動され涙を流されている方や、真剣な表情で見ている方、笑顔で楽しんでおられました。

又、職員とご利用者が参加する場面ではアットホームな雰囲気その場を満ちたし、梅雨時のジメジメした鬱陶しさを吹き飛ばしてくれた様な爽やかな気持ちに変えて下さったと感じました。こうした機会の中で頂いたパワーを糧にご利用者、職員共々暑い夏を乗り越えていける力を得られた一日になりました。



笑顔満点！ハイ、チーズ！



難しいな～

私が、神に呼ばれると、主は私を救ってください。

詩篇五十五編十六節

フレッシュジュース

ヘルパー 小野村麻樹

七月七日に七夕行事でフレッシュジュースを行いました。今年は、バナナ、パイナップル、メロンの三種類をジュースにしてご利用者に提供しました。その中でも一番人気があったのはバナナでした。ご利用者に感想を聞くと「甘いから美味しい」と満面の笑みで話して下さいました。

次に人気だったのはメロンでした。メロンは砂糖も入れて作っていましたが、砂糖がなくても甘いくらい果汁がありました。パイナップルも人気で、さっぱりとして美味しい」と感想が聞けました。今年では三種類が少なめでしたが、普段、中々水分が進まない方でも、ゴクゴクと飲んで頂けて嬉しかったです。短い時間でしたが、ご利用者に楽しく美味しく飲んでもらえて良かったと思います。



新鮮で美味しい



夏の思い出

サマーフェスティバル

日時 八月四日(金) 十七時～十九時半

場所 ふれあいのサロン

服装 スーツ系装束のり

ゲストタイクニ ティファルナイスジュース 筑波大王コロローレ (民族楽器) が来られます。ぜひご参加下さい

編集後記 木々が青々と茂り、暑い時期となりましたが、体調にはお気を付けてください。 ヘルパー 宮本 木村

相談員日誌 「挑③」 宮本真次

相談員として5年の月日が過ぎた。日々、感じているのは現場で起きる事実が全てという事。想像もつかない展開になる事案も当然の様に起きます。日々、その対応に必死である。只、対応をする中で得るものも多い。これは野球で言う練習は可能を可能にするトレーニング。大の成長」とは、そういう泥臭い毎日の繰り返しでもたらしてくれるものなのかもしれない。

オープンユニティー コスト、おチャレンジを躊躇って無駄に過ごした機会コスト、時間コスト」という言葉がある。事案の困難さから、チャレンジを躊躇した事で得たかもしれない学びと経験がとてつもないものとなり、あとで後悔しない様、日々、チャレンジし続けなければと感じている...

七月	六月
二日 十六日 二十三日 三十日	一日 二日 三日
三日 六日	四日 十三日 二十日 二十七日
七日 九日 二十三日	五日 八日 九日 二十三日 三十日 三十一日
十三日 二十日 二十六日	六日 十三日 二十日 二十七日
二十日 二十五日	七日 九日 二十三日 三十日 三十一日
二十七日	八日 十三日 二十日 二十七日
三十一日	九日 二十三日 三十日 三十一日

七月のお誕生の皆様

北島良平様 大正十二年七月十五日 九十四歳 お誕生日おめでとうございます

高齢者 障がい者と共に歩む

理事長 宇都宮和子

障がい者の新しいグループホームも5月に開設、通所ハレやでは就労のご利用者さんがパン工房で食パンを焼き、地域カフェ、おどろの木、では手作りケーキとコーヒールで家族やご利用者、職員の憩いの場所に成りつつある。この「おどろの木」に、星野富弘さんの本が全巻、多胡様から寄贈されました。花の絵と詩のことは輝きには心が癒されます。来年4月桜の頃に富弘さんの絵巻を飾り、コンサートが出来た事を、祈り、話し合っています。又、ファミリーホーム小規模児童養護施設、事業所内託児所も完成、その開設に向けて今、勉強中ですが、徐々に福祉村の姿を神様が見せてくれます。主を見上げゆくりゆくり前進です。